

東桜コンピテンシー2019 「⑤批判的思考力」について

⑤「批判的思考力」critical thinking

「誰が言ったかに左右されず、事実は事実、意見は意見として区別してそれぞれを評価する力。「なぜか？」という問いを常にもち、様々な角度から客観的に物事を考える力。情報を観察し、分析し、論証し、最終的には自分の意見を提示する一連の思考技術。」

「批判的思考力」(critical thinking)と聞くと、否定的な評価というニュアンスがありますが、「批判」という言葉の意味は、もともと、物事に検討を加えて、判定・評価することです。したがって、批判的思考力を身に付けるということは、先入観にとらわれずに、中立的な立場で物事を見る態度を身に付けることと言えます。

いま、クリティカル・シンキングが重要視されていますが、なぜでしょうか。それは、組織の中で「決まったことを正確にできる人」が求められていた時代から、「自分の頭で考え、納得解・最適解を出せる人」が必要とされる時代へと変化してきているからだと思います。

ここでは、東桜学館の学びの中で、授業や探究活動をはじめとするさまざまな活動に取り組む際に意識してほしいことについて述べていきます。

(i) 事実は事実、意見は意見として区別してそれぞれを評価する力を鍛えよう

まず、はじめに「ハーバード・スタンフォード流『自分で考える力』が身につくへんな問題」よりクリティカル・シンキングの基本を問う問題を考えてみましょう。(明朝体の部分が引用しているところです。)

[問題]

「ミッキーマウスは人気者だ」は事実？ 意見？ なぜ事実（または意見）と言えるのか、についても考えてください。

一般的なことを言うと、これは「意見」です。なぜなら、「人気者」という言葉の意味の捉え方は人それぞれ微妙に違いそうですし、「これが、人気者であることの動かぬ証拠だ」と言い切れるほどの証拠はなさそうだからです。一方、たとえば、「10人のうち8人が好きと言えれば、それを『人気者』と呼ぶ」などと定義を決めておけば、「事実」と言うこともできます。

人の話を聴く場合、文章を読む際には、それは事実なのか、述べている人の考えなのかをきちんと区別することがまず大切です。

クリティカル・シンキングに対して、ロジカル・シンキング（論理的思考力）があります。それらの違いが明確ではない人は、ロジカル・シンキングは、思考方法、思

考技術であるのに対し、クリティカル・シンキングは、物事を考える際の「思考態度」であるという点が異なっていると捉えておきましょう。

そして、クリティカル・シンキングを身に付けるうえでは「事実と意見を区別する」という思考態度を身に付けることをまず意識しましょう。

(ii) クリティカル・シンキングの3つの基本姿勢

「MBA クリティカル・シンキング」(グロービス経営大学院著、ダイヤモンド社)では、①目的は何かを常に意識する、②自他に思考のクセがあることを前提に考える、③問い続ける、の3つがクリティカル・シンキングの基本姿勢だと述べています。

①目的は何かを常に意識しよう

正しく考えるためには、「何のために考えるのか」「そもそも、いま、このことについて考える意味はあるのか」「本当の目的は違うところにあるのではないか」と考える習慣をつけることが重要です。目的を見失ってしまうと、問題の一部だけに注目したり、問題のあちこちを意味もなく検討したりするなど、なかなか全体的な解決には至らなくなるからです。

②自他に思考のクセがあることを前提に考えよう

人にはそれぞれの経験やその経験から得た価値観があります。それをもとに、さまざまなことを考えています。したがって、考える際の背景は人によって異なっているということを踏まえたうえでコミュニケーションや課題解決をしていかないと議論がかみ合わなかったり、狭い範囲での議論になったりすることがあります。

その点では、自分自身の思考のクセについても、客観的に把握(メタ認知)しておいた方がよいでしょう。

こうした思考のクセを客観的に把握することができれば、議論のすれ違いや、解の見落としは減るはずで、また、そもそも自分の考えが常に最善であるとは限らないという前提のもと、他者との対話や、自分にはない視点に触れることを通じ、互いに建設的に考えを高めていくことに議論する意義があるのです。クリティカル・シンキングは他者の批判あるいは自己の正当化を目的とするものでは決してないということを認識しましょう。

③問い続ける(「なぜか?」という問いを常にもち、様々な角度から客観的に物事を考える力)

いろいろな情報を鵜呑みにするのではなく、常に「なぜか?」という問いを自分の中に持ち続けることが大切です。たとえ、何らかの結論に達したと思っても、そこで思考を止めず、さらに考え続けるということです。

その際に問う言葉は、「So what?」(だから何なの? その意味は?)、「Why?」(なぜ?)、「True?」(本当に?)の3つです。「So what?」と問うことは本質を

ひねり出すことにつながります。「Why?」と問うことは原因の発見や前提の確認につながります。「True?」と問うことは誤解がないかの確認につながります。

(引用・参考文献)

「ハーバード・スタンフォード流『自分で考える力』が身につくへんな問題」

(狩野みき著、SBクリエイティブ株式会社)

「グロービスMBAクリティカル・シンキング」

(グロービス経営大学院著、ダイヤモンド社)

令和2年(2020年)1月